

〈症例 1〉

【現病歴】

56 歳女性。
2026 年 3 月、右乳房のしこりを自覚し近医を受診。乳房超音波検査で右乳房上外部に腫瘤を認め
たため、精査目的に当院紹介となった。
マンモグラフィでは右乳房 C 区域に 22mm 大の腫瘤影を認めた。
造影 MRI では右乳房上外部に単発性腫瘤を認め、胸壁浸潤および皮膚浸潤は認めなかった。
CT 検査では腋窩リンパ節腫大なし。肺・肝・骨への転移を認めなかった。

【生検結果】

針生検：Invasive ductal carcinoma of no special type
ER：陽性 PgR：陽性 HER2：陰性（1+）

【治療経過】

2026 年 5 月 10 日 右乳房部分切除術＋センチネルリンパ節生検＋腋窩郭清 施行。

【病理結果】

浸潤径：22mm
組織型：Invasive carcinoma NST
NG：2 HG：2
リンパ管侵襲：Ly1 静脈侵襲：V0
センチネルリンパ節：1/3 個陽性 腋窩リンパ節：レベルⅠ 0/8 個
転移径：4mm 断端陰性 遠隔転移なし。

局在コード	C50.4
局在テキスト	乳房上外部（C 区域）
側性	右
形態コード	8500/32
形態テキスト	Invasive carcinoma NST HG:2

cT 2	cN 0	cM 0
c 付加因子	該当せず	
cStage	Ⅱ A	
c 進展度	限局	
pT 2	pN 1a	pM 0
p 付加因子	該当せず	
pStage	Ⅱ B	
p 進展度	領域リンパ節転移	

〈症例 2〉

【現病歴】

63 歳女性。

左乳房腫瘤を自覚し 2026 年 1 月当院受診。

超音波検査で左乳房上内側部に 45mm 大の腫瘤を認めた。

左腋窩リンパ節は複数腫大しており、転移と考えられる。

CT では遠隔転移を認めなかった。

【生検結果】

針生検：Invasive lobular carcinoma

ER：陽性 PgR：陰性 HER2：陰性（1+）

【治療経過】

臨床診断：左乳癌 cStage II B

術前化学療法：EC 療法→ドセタキセル療法施行。

治療後、2026 年 8 月に左乳房全切除術＋腋窩郭清施行。

【病理結果】

乳房：残存浸潤癌 10mm

組織型：Invasive lobular carcinoma

リンパ節：腋窩リンパ節 18 個中 3 個陽性

最大転移径 8mm

局在コード	C50.2
局在テキスト	乳房上内側部
側性	左
形態コード	8520/39
形態テキスト	Invasive lobular carcinoma

cT 2	cN 1	cM 0
c 付加因子	該当せず	
cStage	II B	
c 進展度	領域リンパ節転移	
pT 術前治療後	pN 術前治療後	pM 術前治療後
p 付加因子	該当せず	
pStage	術前治療後	
p 進展度	術前治療後	

〈症例 3〉

【現病歴】

56 歳女性。

乳がん検診マンモグラフィにて、左乳房 D 領域に石灰化を指摘され、精密検査目的に当院受診。

マンモグラフィで左乳房 D 領域に区域性の微細石灰化を認めた。

乳房超音波検査では明らかな腫瘤を認めなかった。

ステレオガイド下マンモトーム生検を施行した。

【病理結果】

Ductal carcinoma in situ (DCIS)

ER：陽性 PgR：陽性 HER2：陰性

【治療経過】

2026 年 6 月 左乳房部分切除術施行。

【手術病理】

Ductal carcinoma in situ (DCIS)

病変の広がり：18mm

浸潤癌成分なし

切除断端：陰性

リンパ節転移：なし

遠隔転移：なし

局在コード	C50.5
局在テキスト	乳房 D 領域
側性	左
形態コード	8500/29
形態テキスト	Ductal carcinoma in situ

cT is (DCIS)	cN 0	cM 0
c 付加因子	該当せず	
cStage	0	
c 進展度	上皮内	
pT is (DCIS)	pN 0	pM 0
p 付加因子	該当せず	
pStage	0	
p 進展度	上皮内	

〈症例 4〉

【現病歴】

61歳女性。
2026年5月、左乳房のしこりを自覚し当院乳腺外科を受診した。
マンモグラフィおよび乳房超音波検査で左乳房下内側部に32mm大の腫瘤を認めた。
転移と考えられる左腋窩リンパ節の腫大を認めた。
CT検査では肺・肝・骨への遠隔転移は認めなかった。
超音波ガイド下針生検を施行した。

【病理結果（針生検）】

Invasive carcinoma of no special type (NST)
ER：陰性 PgR：陰性 HER2：陽性（3+）

【治療経過】

臨床診断：左乳癌 cStage II B
術前化学療法（ドセタキセル＋カルボプラチン＋トラスツズマブ＋ペルツズマブ）施行。
2026 年 9 月 左乳房全切除術および腋窩リンパ節郭清を施行した。

【手術病理結果】

浸潤径：12mm
組織型：Invasive carcinoma NST
NG：2 HG：3
リンパ節転移：1/18 個
遠隔転移なし

局在コード	C50.3
局在テキスト	乳房下内側部
側性	左
形態コード	8500/39
形態テキスト	Invasive carcinoma of no special type (NST)

cT 2	cN 1	cM 0
c 付加因子	該当せず	
cStage	II B	
c 進展度	領域リンパ節転移	
pT 術前治療後	pN 術前治療後	pM 術前治療後
p 付加因子	該当せず	
pStage	術前治療後	
p 進展度	術前治療後	

〈症例 5〉

【現病歴】

69歳女性。

2026年2月、右乳房腫瘍を主訴に当院を受診した。

乳房超音波検査で右乳房中央部に28mm大の腫瘍を認めた。

転移と考えられる右腋窩リンパ節腫大を認めた。

CT検査で多発肝転移を認めた。

針生検を施行した。

【病理結果（針生検）】

Invasive carcinoma of no special type (NST)

ER：陰性 PgR：陰性 HER2：陰性

【治療経過】

臨床病期Stage IVと診断し、化学療法による全身薬物療法を開始した。

原発巣に対する手術は施行していない。

局在コード	C50.1
局在テキスト	乳房中央部
側性	右
形態コード	8500/39
形態テキスト	Invasive carcinoma of no special type (NST)

cT 2	cN 1	cM 1
c 付加因子	該当せず	
cStage	IV	
c 進展度	遠隔転移	
pT 手術なし	pN 手術なし	pM 手術なし
p 付加因子	該当せず	
pStage	手術なし	
p 進展度	手術なし	